

# 緑の地球

## GREEN EARTH

地球環境のための国境をこえた民衆の協力



東日本大震災から今年で10年。GENはゆりりん愛護会と協力して海岸林再生活動に取り組んでいます。

### Contents

- 小川眞先生を偲んで ..... P 1
- GEN なんでも勉強会オンライン参加者募集 ..... P 1
- 夏季寄付のお礼とご報告 ..... P 2
- あの人の人 ..... P 4
- 大同緑化協力25年の軌跡 ..... P 7

2021.9  
201

認定特定非営利活動法人 緑の地球ネットワーク



## 緑の地球ネットワーク 顧問 小川真先生を偲んで

白砂青松再生の会の主宰者で緑の地球ネットワークの顧問でもあった小川



大同に何度も足を運んでいただきました

真先生が8月13日に逝去されました。つつしんでご冥福をお祈りいたします。

1997年4月に大同で菌根菌による育苗を指導していただいたのを契機に、たくさんの樹木医の方たちを誘って菌根菌や木炭の利用などに取り組んでいただきました。また東北の海岸林再生活動でもたいへんお世話になりました。

海外での緑化事業の経験も豊富な方で、私はその一挙手一投足に学ばせていただきました。大同で松枯れの問題が起きたとき、小川先生の

「騒ぎなさい！」という一言に背中を押されて、自分ひとりでは絶対にしないことに取り組み、最終的には大きな成果に結びつけることができました。それについては若手の世話人のすすめで、以下のところに追悼の動画をおきました。小川先生を偲ぶですがにしていたいただけると幸いです。(高見邦雄)

動画「小川真先生を偲ぶ」は GEN の YouTube チャンネル (URL <https://www.youtube.com/channel/UCRXZ1TV0CjEiV14RkgSnjUQ>)

よりご覧いただけます。右の QR コードからもアクセスできます。



### 新作公開中！ GEN の YouTube チャンネル

度重なる緊急事態宣言でさまざまなイベントが中止になっています。自粛生活でうち時間が長くなるなか、みなさんが動画を見て GEN と繋がっていただくと、GEN 世話人の鶴田惇さんが中心となって YouTube チャンネルを作成しました。GEN の活動紹介映像や、オンライン勉強会などをアップしており、どなたでも無料で視聴できます。

今回新たに #1「小老樹」、#2「小老樹(続き)」を公開しましたのでぜひご覧ください。見ていただいてコメント欄にメッセージをいただくと励みになります。

また、GEN 自然と親しむ会は長引く新型コロナウイルスの影響で開催ができない状況ですが、オンライン上で自然観察を楽しんでいただく動画を制作し、YouTube で公開していく予定です。こちららぜひ楽しみに。

GEN の YouTube チャンネルには上記「小川真先生を偲ぶ」の QR コードからアクセスできます。また、YouTube のトップページから「緑の地球ネットワーク」で検索すると出てきます。

## 東北海岸林再活動 ゆりりん愛護会と GEN のあゆみ

10月に予定していた現地の訪問ですが、残念ながらコロナの状況を鑑みて見送ることにしました。楽しみにしていた方には申し訳ありません。

2021年は東日本大震災から10年の節目でもあり、現地の訪問が叶わず残念ですが、ゆりりん愛護会会長の大橋信彦さんがこれまでの植樹活動をまとめてレポートを届けてくださいましたのでみなさまにご報告します。

GEN は 2015 年からゆりりん愛護会主催の復興植樹祭に参加し、仙台市荒浜、岩沼市寺島など 0.48ha の面積に 2,414 本の苗をうえました。

また、海岸林再生のための植樹活動以外にも被災地訪問などの活動をおこなっています。

## 新企画 パトンをつなごう！

200号から GEN 会員をつなぐ新企画として、リレーコラムをスタートしました。それぞれの思いをリレー形式でお伝えしていきます。コラムを読んだ感想や、次号をご執筆いただけるかたを募集しています。ぜひ GEN までご連絡ください。

昨年10月から、カンボジアの首都プノンペンで暮らしています。ここ20年近く、2~3年刻みでアジアの国々を転々とする生活を続けており、その間、主に国際協力機構(JICA)が実施する途上国支援事業の運営スタッフとして働いてきました。特に専門技術は持ち合わせていないのですが、日本で森林管理の仕事をしていた経緯から、森林分野の事業に従事する機会が多く、今回も、カンボジア政府の森林保全管理能力の強化を目的とするプロジェクトに参加しています。

長い海外生活の中で、日本では考えられないような困難に直面する場面

植えられた苗はゆりりん愛護会によってしっかり維持管理され、順調に成長しています。マツが無事成長し、東北に立派な海岸林が復活するよう見守っていききたいと思います。

## 夏季寄付お礼とご報告

44件、431,336円の寄付があつまりました  
みなさまのご協力ありがとうございます

いつも GEN を応援していただき、ありがとうございます。7月の会報で夏季寄付を呼びかけたところ、たくさんのご協力をいただきました。ご協力いただいたみなさま、どうもありがとうございます。寄せられた寄付のお礼とご報告です。

7月16日から8月31日までにお寄せいただいた寄付は431,336円、44件でした。

会員の減少がすすむなかでも44件の寄付が集まったことは大変ありがたい

ことで、活動の励みになっています。

4月からの累計の寄付額は839,000円となりました。

2020年から現在まで中国を訪問できず、いまでも出口が見えない状況が続きますが、みなさまにご協力いただいで活動が継続できていることに深く感謝し、お礼申し上げます。



## GEN 会員によるリレーコラム

第2回目 ロックダウン中のプノンペンで見た朝日  
町田 良太さん(カンボジア)

ど全体主義的な性格が色濃く残っていて、必要とあらば、政府は都市封鎖のような強権発動も躊躇なく選択します。ロックダウン期間中、外出は原則認められませんが、室内にこもり続けるにも限度があります。早々にギブアップした私は、警官の姿が見えない早朝にこっそり出歩くことを日課としていました。メコン川に上る朝日を眺めることが、息苦しい時間における唯一の慰めだったのです。

ロックダウン自体は3週間で解除されたものの、その後もさまざまな規制が生活や仕事の足枷になっているのは日本と同様です。コロナ禍終息への道筋が見えない中、自由な往来が許される世界が戻る日を切実に待ちわびる毎日を過ごしています。

ロックダウン自体は3週間で解除されたものの、その後もさまざまな規制が生活や仕事の足枷になっているのは日本と同様です。コロナ禍終息への道筋が見えない中、自由な往来が許される世界が戻る日を切実に待ちわびる毎日を過ごしています。



# あの人 この人

「あの人この人」では、個性豊かな GEN 会員のあれこれをご紹介します。このコーナーでご自身を紹介して下さる GEN 会員を募集しています。「我こそは」というかたは GEN までご連絡ください。

宮下 利江さん (千葉県)



・簡単に自己紹介をお願いします。  
こんにちは。宮下利江と申します。

千葉県習志野市に住んでいます。外国の人に日本語を教える仕事をしています。

- ・いつから GEN に参加しましたか？  
1996 年の春のツアーからです。
- ・GEN に入ったきっかけは？  
当時勤めていた会社の労働組合が派遣してくれたツアーに参加したことがきっかけです。
- ・労働組合の委員長にバスの中で誘われました。
- ・印象のこっている GEN の活動は？  
たくさんありますが、一番最初のツアーで農家に民泊したことです。朝、洗面器一杯の水で参加者 4 人が顔を洗い、その家の家族が顔を洗い、最後にアヒルの飲み水になったことに衝撃を受けました。
- ・GEN の良いところは？  
色々な人に会えること。いろいろな話が聞けること。時に無理をし、でも大抵は無理せずゆったりとしているところ。
- ・逆に悪いところは？  
お酒はほどほどに…。全然飲めないわたしにはかつて、GEN の宴会はかな

り厳しい時間でした。20 年たった今でも、時どきの宴会でみなさんの酒量が変わっていないことに驚きます (笑)

- ・GEN に期待すること  
会員のみなさん、お元気で。健康第一に。そして、今までやってきたことがこれからどのように続いていくのか、見守る、見届ける仕組みが必要かと。緑の本当の姿は 50 年先、100 年先ですから。
  - ・会員のみなさんへひとこと  
主に関東在住のみなさんといっしょに御嶽山にレンゲショウマを見に行った夏から 2 年が過ぎます。また夏の山、秋のキノコ狩り、冬の温室、春の庭に行きたいですね。そして、中国へも。
- 私は GEN のツアーに参加したことが翹になって、長い長い時間をかけてそれが発酵し、日本語を教えるという仕事にたどり着きました。この仕事も今年 20 年目です。まだまだ発酵熟成途中です。GEN がどんなお酒になるのか、はたまた、おいしい酢になるのか楽しみにしています。楽しくお過ごしください。

## いままぐできる GEN への協力

### ■会員の輪をひろげよう！

緑の地球ネットワーク会費 (年額)

一般会費	12,000 円
家族会費 (同居の家族 2 人目から)	6,000 円
学生会員	3,000 円
ジュニア会員 (中学生以下)	1,000 円
団体会員	12,000 円
賛助会員	100,000 円

※会費は会報購読料を含んでいます。

### ■会報を購読してください！

GEN の活動に関心はあるけれど会員になるのはちょっと、という方は、会報『緑の地球』を購読していただませんか。年間購読料 2,000 円。

### ■緑化資金、運営寄付もとむ

金額は自由です。また、緑化資金、運営寄付の別を問わない使途自由のご寄付も受け付けます。その場合、必要に応じて使わせていただきます。

\* 緑化資金の 20% は事務管理費になり

ます。

### ■絵はがき『黄土高原の花』

8 枚組・300 円 (送料別途。5 セット以上送料無料)

### ■書き損じはがきを集めています

書き損じはがき、古い未使用のはがきを集めています。通信費にあてます。

### ■未使用切手・古切手を集めています

普通切手、記念切手、外国切手なんでも OK。古切手は周囲を 1cm ほど残して切り取ってお送りください。

### ■ボランティア募集

会報発送や事務所の手伝いなどのボランティアを随時募集しています。参加可能な曜日、時間帯をご連絡ください。来ていただきたいときに GEN から連絡します。

\* \* \* \* \*

【GEN への寄付は税制上の優遇措置を受けられます】

緑の地球ネットワークは大阪府に認

定された認定 NPO 法人です (期限は 2024 年 4 月 8 日まで)。

個人による GEN への寄付は、税額控除あるいは所得控除を受けられます。対象となるのは 2,000 円を超える寄付金で、確定申告が必要です。

企業からの寄付金は一般寄付金の損金算入限度額とは別枠の損金算入限度額が認められています。

また、個人が相続または遺贈により取得した財産を、相続税の申告期限以前に認定 NPO に寄附すると、相続税の課税対象から除外されます。

GEN の場合、寄付金となるのは緑化基金、運営カンパ、おまかせカンパと会費のうち 1 口を超える部分、賛助会費から 12,000 円を引いた金額です。

また、大阪府民、大阪府民のかたには個人住民税の控除もあります。くわしくは GEN までご連絡ください。



## SDGs を多角的に考え、行動しよう

門脇 宥祈子 (GEN ジュニア会員)

7 月 31 日 (土)、GEN なんでも勉強会オンライン「グローバル目標「SDGs」を考えよう #2 気候変動の現在 京都議定書 24 年」をおこないました。19 名が参加しました。

先日は素敵な講演をありがとうございました。私は以前北京で GEN の緑化のための寄付活動をさせていただきました。バイクセールとあって、自分たちで作ったお菓子やケーキを売って、利益を寄付いたしました。その時のご縁で、高校生ながら再び活動に参加しています。

最近、頻繁に目にする "SDGs" ですが、私がお話の意味について知ったのは学校の授業でした。中学校の社会科に持続可能な社会という単元があり、一つ一つの目標について学習しました。例えば、13 番の気候変動に具体的な対策を、はその影響に立ち向かうための緊急対策をたてるなどで、事例はこういうのがありますよといったことを学びました。試験でもこの事例は何番の

目標か答える問題があり、一つ一つの目標を個別に学びました。しかし、今回の原さんの講義を聴いて、SDGs は目標一つ一つを単体で考えるのではなく、それらを複合して問題を把握し、そこから解決に取り組む必要があるということが分かりました。それを象徴するように、GEN の活動は植林活動から気候変動問題に貢献するだけでなく、現地の人々の貧困問題も考慮しながら活動を行なっています。特に、あんずの木を植えることで現地の人が安定した収入を得られるようになり、同時に人々の理解を得て砂漠化に歯止めをかける植林につながった例は、多角的に複数の目標を組み合わせた代表例だと思います。今回、原さんがお話をくださったように、一つの目標ではなく多角的に



考えることが大切だと実感できる事例でした。

あと 3 年たてば、私は母が初めて大同に行った年齢になります。きっと大同だけでなく、世界中の景色は、気候変動や環境問題で母が見たころのものとは変わっているでしょう。景色だけではなく、そこで生きているものも違うのかもしれませんが。その現実をどう受けとめていくのか、私たちの世代はこの次の世代のために頑張らなければいけません。だから講師の原裕太さんに質問して答えていただいたように、身近にある今日明日にできることを今すぐに始めなければいけません。

みんなで始めましょう！そして自分がやった地球のためにできることを発信しましょう！



## 一口に 30 年というけれど

桃井 美鈴 (GEN 会員)

高見副代表が撮りためたポジフィルムをスキャンしたのでみなさんに見ていただくということで 7 月 27 日 (火)、GEN なんでも勉強会オンライン「黄土高原緑化協力もうちょっとで 30 年」をおこないました。29 名が参加しました。

7 月 27 日、オンライン勉強会「黄土高原緑化協力、もうちょっとで 30 年」に参加させていただきました。画像に映し出される古い写真に出てくる人たちは、まだ青年の名残を持っており、30 年前と今の年月の重みをずっしりと感じました。

私が初めて GEN のツアーに参加したのは 2007 年ですが、まだヤオドンに暮らす人もおり、良くも悪くも村は昔ながらで、ホームステイと、大同市内のホテルでの暮らし方との大差、特に水の使い方に、大変なカルチャーショックを受けました。2 回目に参加したのは 2015 年で、このときは村で食事をいただく私たちを、窓へはばりついで覗き

に来る子供たちの姿はなく、木陰で二人の子がゲーム機で遊んでいました。そのあと、2016 年のツアーは、新しい挑戦、蔚県の緑化協力の始まった年でした。

オンライン勉強会の高見さんの話と映像ではツアーでは見えない、現地の人たちとのやり取り「人と人」として向き合うことから高い政治的な交渉まで、かと思うと、目に見えない大きな力に動かされての不思議な進展とそのよい結末、専門家の先生方の熱い思いや緑化センターの人たちの地道な働き、が伝わってきました。

これらのことは、ほんの少しのツアー体験では想像していても、知りえない

ことでした。写真の方たちが、どんなに緑化に協力して苦労を分かち合っただけでなく、ツアーでお会いしながら、お礼も言わずにさらっと別れてしまったことを勉強会の中で感じ、今その方たちの汗と思いが大きく実ってきていることを心から感謝します。

そして 30 年の中で変わらず素敵なのは、高見さんの小さな人、貧しい人、地に足を付けて暮らす人々への優しいまなざしです。最初のツアーでヤオドンの村の子供たちがお土産を売りに来た時、「家族を支えるためにしているのだから、少しでも買ってあげてください」という高見さんの言葉は、ずっしり胸に残っています。また、植林作業を終えて村に入ったとき、居合わせたお母さんから赤ちゃんを受け取って、赤ちゃんの顔にじっと見入っている高見さんの顔もよかったです。

緑の地球ネットワーク、いい名前です。



黄土高原紀行 <5>

一、雲岡石窟（4）

谷口 義介（GEN 会員）



あらためていうと、武州山の南麓断崖をうがって造られた石窟群は、前述の関野・常盤両氏により、東から西へと番号がつけられているわけだが、第5・6窟を出たあと、いくつか飛ばして、さらに西の方に行ってみる。雲岡石窟といえかならず写真で見る、巨大な石像が並んでいるからだ。

高さ13から16メートル。大半は外壁が崩落してしまったため日光と風雨にさらされているが、もとは洞窟の中にあった。これら第16～20窟がいわゆる曇曜五窟で、雲岡石窟中、造られた時期がもっとも早い。第4代文成帝（452～465年在位）のとき、曇曜の提言をうけて開創された。

ここでしばらく、北魏の仏教につき概観しておこう。

398年、いまの大同に都を遷して漢代以来の「平城」の名をおそい、北魏を建てた初代道武帝（386～409年在位）

は、詔して都に寺院と仏像を造らせた。また高僧法果をまねいて道人統（宗教全般をつかさどる機関のトップ）に任命したが、その法果は

「太祖（道武帝）は明叡にして〔仏〕道を好む。即ち是れ当今の如来なり。沙門宜しく応に礼を尽くすべし。」（『魏書』釈老志）

と、衆僧にむかって帝を拝すべきことを説いている。つまり“皇帝さまは生き仏”というわけだが、こうした考え方こそ北魏仏教の特徴といえるだろう。ちなみに、このころ北魏と対立していた南朝では、僧侶が皇帝に礼拝するなどといった義務はなかった。

第2代明元帝（409～423年在位）も、仏法を崇（あが）め、京邑・四方に〔仏〕図（仏寺）・〔仏〕像を建立せしめ、仍ほ沙門をして民俗を敷導せしむ。（同上）

という。

第3代太武帝（423～452年在位）は心底からの仏教信者ではなかったが、439年、西方の北涼（397～439）を滅ぼすと、涼州（甘肅省武威）の民3万余家を平城に移した。涼州はもともと「多く塔寺あり」といわれるほど仏教が盛んな地だったから、これをうけて平城は、

沙門・仏事俱に東して、象教（仏像・仏典）いよいよ増す。（同上）

という状態になった。ところが、太武帝は道教びいきに傾いて、446年に廃仏を断行し、平城の寺院や仏塔はことごとく破壊をこうむった。452年、帝が宦官に暗殺されたのは、仏教側からみれば仏罰ということになる。

この宦官を誅殺して即位したのが、上記の第4代文成帝である。太武帝の嫡孫にあたるが、451年に憂死した父・太子晃ゆずりの熱心な仏教信者だった。即位後、さっそく仏教復興の詔勅を下して、宗教界を管理する前出の道人統にはカシ米尔出身の高僧師賢を任命。この人はもともと涼州にいたのだが、北涼が北魏に滅ぼされたおり、平城につれてこられた。

460年、復仏に貢献した師賢が亡くなると、つぎに沙門統（道人統を改称）に選ばれたのが、さきほど名前を出した曇曜にほかならない。じつは曇曜も涼州にいて北涼の王族・貴族から礼遇されていたが、太武帝による強制移住で平城に来ていたらしい。文成帝に取り立てられた曇曜は、北魏仏教のさらなる復興に全力を注ぎ込む。その計画の一つが、武州山（雲岡）に五大石窟を彫り出すことだった。

京城の西の武州塞に於て、山の石壁を鑿ち、五所を開窟し、仏像各々一つを鑄建す。高き者は七十尺、次なるは六十尺。彫飾の奇偉なること、一世に冠たり。（同上）

曇曜はおそらく配下に北涼以来の仏師集団を率いていたのだろう。開窟・鑄建には高度な技術を要したはずだ。そのうえ、武州山の岩質が石英や長石など細かい粒子が凝固してできた硬い砂岩だった、ということも幸いした。道武・明元・太武という北魏三代の経営によって、国庫も充実していただろう。

# 大同緑化協力 25 年の軌跡

## 南天門自然植物園の建設

GENの山西省大同市での25年の緑化協力を振り返り、当時の写真も交えてシリーズでご紹介します。今回で27回目です。（高見邦雄）

立花吉茂前代表の発案で、霊丘県南部の山地に「植物園」を建設する準備を始めたのが1998年です。その過程で自然林が見つかったのは、以前に報告しました。7か所の候補地をすべてみて、最後の上寨鎮南庄村付近の荒れ山で翌年4月にスタートしました。

近くのと協定して放牧、生活燃料の伐採などを禁止してもらいました。灌木や草は鋭い刺が毒のあるものだけだったのに、マメ科やイネ科のものがたちまち繁ってきました。放牧の影響の深刻さを実感したのです。

李向東さんはじめ5人のスタッフがそろい、自然林などから集めた種子で育苗を始め、それを適所に植えていきます。

思いがけぬ速さで植生の回復が始まりました。海拔1300mの稜線近くには樹高2mくらいの弱々しいナラなどが残っており、それが伸び始めました。燃料として伐採されても根株は残っていますので、それも伸び始めます。乾燥地の樹木や植物は私たちの常識よりずっと強く、成長も速いと感じます。

北向きの日陰斜面（陰坡）は樹木の

生育がよく、森林が再生してきました。ナラ、シナノキ、カバノキなどの落葉広葉樹が主体です。毎年、枯れ葉や枯れ枝を落とし、それが土を肥やして、良性の循環が始まります。

乾燥する日向斜面（陽坡）は植物が育ちにくく、雨で表土が流される悪条件なのに、時間をかけて灌木や草が増えてきました。植物の種類は陰坡よりずっと多く、いまとなつては貴重な存在です。

森林の再生を記録しようと、同じ場所、同じ角度で写真を撮ることに決めていたのに、樹木が繁りすぎて、見通しがきかなくなりました。陰坡と陽坡に20m×20mの調査区を設け、樹種名、胸高直径、樹高などを測定・記録していたのに、陽坡のそれは灌木が繁りすぎて、なかに入れなくなりました。それくらい私たちの想定を上回ったのです。

86haの土地ですが、低いところは900m、高いところは1300mで、高低差が400mあります。大きな稜線が4本あり、谷筋も3本あります。高低差があり、地形も複雑なほ

うが多く種類の植物が育つとの考えがありました。中国の気候区分では渾源と靈丘の県境あたりから南は暖温帯、北は寒温帯に属するそうで、両方の植物が混じり合っているのかもしれない。

中国林業科学院の陳幸良副院長が2013年春にこの南天門自然植物園を訪れ、2日間をかけて陰坡と陽坡に登りました。そして、封山育林のプロジェクトは全国に無数にあるけれどもこれほど順調に森林が回復しているところは珍しい、中国の北方でこれだけ植物種が豊富なおともほかにないだろうと高く評価しました。

地元のスタッフたちが調査し標本をつくったところでは、82科523種が確認されているそうです。私たちの事業のもっとも重要な成功例でしょう。



園内にある植物の標本を作成するスタッフ

## GEN で活動中のインターン生のご紹介

8月～9月の2か月間、GENでインターン生が活動していますのでご紹介します。中国福建省のご出身でなんでもこなす優秀な学生さんです。事務所には来所せず、オンラインで活動しています。



初めまして、この度「緑の地球ネットワーク」でインターン生としてお世話になっている

関西大学3年の林婉欣です。私は、このインターンシップ活動を通して国境を越えた環境問題について

より理解していきたいと考えています。GENの活動や考え方はもちろん、環境問題を今後どのように解決していくべきなのかをこの夏で学びたいです。

また、GENの活動内容をもっと若年層に知ってもらいたいと思っています。これらを踏まえて、私は大学のゼミでも他の環境問題について友人たちと解決策を出していきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。

## GEN 会員メーリングリストにご参加ください ～ GEN のイベント情報などをお届けします～

GENではオンラインでのイベントが増え、メールでのお知らせの方が便利なこともあり、メーリングリストを作成しました。GEN会報199号でメーリングリストの参加を呼びかけたところ、90名を超える方にご参加いただきました。今後GENのイベントの案内やボランティア募集など、さまざまなお知らせを発信していま

す。「こういう情報を届けてほしい」というリクエストがありましたらお気軽にお寄せください。

メーリングリストは会員であればどなたでも参加可能ですので、参加をご希望の方は表題を「メーリングリスト参加希望」とし、GENまで（gen@gentree.org）メールをお送りください。

また、インターネットで以下のペー

ジからもアクセスできます（google Formを利用しています）。  
<https://forms.gle/gD9VgnsdLXxTr3c89>

下のQRコードからもアクセスできます。みなさまのご参加をお待ちしています。



情報ひろば  
いっしょなかたち

第46期  
ナチュラルリスト  
入門講座

里山で野生動物の足跡や痕跡、フンなどを観察し、生態や暮らしぶりを学び、人と自然を考える講座です。

- 日程：10月9日オリエンテーション、大阪の哺乳動物／10月16日フィールドワーク豊能町・青貝山／10月30日～10月31日フィールドワーク能勢・剣尾山山麓、大阪の里山とシカ／11月20日野生動物の決まりごと／12月4日フィールドワーク池田市・五月山／12月26日フィールドワーク奈良公園／1月11日野生動物と人との関係高槻市・本山寺／2月5日フィールドワーク箕面市・鉢伏山／2月26日フィールドワーク泉佐野市・小富士山／3月6日野生動物の食生活フン分析実習／3月24日最新シカ報告、修了式／4月第40回里山一斉調査に参加
- 会場：フィールドワーク以外は大坂産業創造館5階研修室C 18時30分～20時50分（10月9日は13時～）
- 定員：20名（先着順、高校生以上のかた）

\*当欄掲載のイベント情報は掲載時点のもので、その後変更になる可能性があります。主催者にお確かめのうえ、ご参加ください。  
\*当欄に情報をお寄せください。本紙は奇数月15日ごろの発行で、締切は前月の末です。なお、紙面の都合により掲載できない場合があります。ご了承ください。

- 受講料：一般12,000円、大阪自然環境保全協会正会員10,000円（宿泊費・交通費別）
- 申込み方法：住所、氏名、性別、年齢、電話番号、会員か否かを記入してはがき、ファクス、e-mailで下記まで。
- 申込先：（公社）大阪自然環境保全協会 NOB・BOX 行（〒530-0041 大阪市北区天満橋1-9-13 ハイム天神橋202 tel. 06-6242-8720 fax. 06-6881-8103 e-mail : office@nature.or.jp URL http://www.nature.or.jp/）

楽町駅より徒歩1分）※来場人数により人数を制限する場合があります。

- オンライン会場：グローバルフェスタ JAPAN のホームページ（URL <https://www.gfjapan2021.jp/>）より主催者が用意する Zoom の URL にアクセスし、オンラインコンテンツや配信プログラムにご参加ください。
- 参加費無料。事前のエントリー不要。どなたでもご参加いただけます。
- 主催・問合せ：グローバルフェスタ JAPAN2021 実行委員会（e-mail : [globalfesta\\_info@plan-sms.co.jp](mailto:globalfesta_info@plan-sms.co.jp)）
- 共催：外務省、独立行政法人国際協力機構（JICA）、特定非営利活動法人国際協力 NGO センター（JANIC）

グローバルフェスタ  
JAPAN 2021  
リアル & オンライン

グローバルフェスタ JAPAN は国際協力、社会貢献活動、SDGs などに取り組み団体が一堂に会する国内最大級の国際協力イベントです。30回目となる今年は会場とオンラインのハイブリッドで開催し、出展者による展示・報告や体験イベントなどをおこないます。

- 日時：10月9日（土）、10月10日（日）10時～17時
- 会場：東京国際フォーラム E ホール（東京都千代田区丸の内3-5-1 JR有

編集後記

2021年の夏、日本各地で記録的な大雨や長雨など悩ましいお天気が続きましたが、みなさまのお住まいの地域はいかがでしたでしょうか。被害に遭われたみなさまにお見舞いを申し上げます。あわせて新型コロナウイルスの感染拡大により何かと不便の多い日々ですが、この状況が1日も早く解消され、平穏な日々が戻りますようお願い申し上げます。（河本）